

第一工科大学

数理・データサイエンス・AI教育プログラム

令和4年度 自己点検・評価結果(1/2)

評価日時：2023年3月14日

会議名称：第15回教務委員会

開催場所：第一工科大学

目的：第一工科大学数理・データ・サイエンス・AI教育プログラム（応用基礎レベル）の令和4年度の自己点検・評価

評価項目：文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）」の審査項目の観点による評価

自己点検・評価の視点	自己評価	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
プログラムの履修・修得状況	C	令和4年度は、工学部情報電子システム工学科に対し応用基礎レベル相当の科目を追加展開し、教務委員会において、単位の履修状況および単位取得状況を確認している。本プログラムに関わる科目はまだ一部しか必修科目となっておらず、令和4年度の該当学年履修率は予定を下回った。
学修成果	B	成績やアンケート結果より、履修者は出席不足者を除き概ね、AIデータサイエンティストになるために必要な知識、そしてそれらを実現するためのプログラミング技能を順調に会得している。現在はまだ履修率が高くないが、履修率が上がっても学生一人あたりの学修成果が下がらないよう、教育体制の強化を計画している。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	B	科目によって多少ばらつきはあるが、成績・アンケート共に、出席不足の学生以外は概ね予定の範疇内の理解度に達している。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	B	毎学期、学生アンケートをとり、そのアンケート結果をもとに授業改善計画を立てることにより、後輩等他の学生への推奨度も上がり高い水準に達している。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	C	令和4年度は予定の履修率を下回ったが、令和7年度から全学必修科目とすることで、履修者数、履修率を100%にする。令和7年度以前も、周知活動をすることにより履修率を100%に近づけていく計画である。

A：自己点検・評価の視点を上回る成果を達成できた。

B：自己点検・評価の視点の通り、成果を達成できた。

C：自己点検・評価の視点の通りの成果を達成できなかったが、達成に向けての対応策が立案され、対応に着手している。

D：自己点検・評価の視点の水準まで成果を達成できなかった。さらに、達成に向けた対応策が立案されていない。

第一工科大学

数理・データサイエンス・AI教育プログラム

令和4年度 自己点検・評価結果(2/2)

評価日時：2023年3月14日

会議名称：第15回教務委員会

開催場所：第一工科大学

目的：第一工科大学数理・データ・サイエンス・AI教育プログラム（応用基礎レベル）の令和4年度の自己点検・評価

評価項目：文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）」の審査項目の観点による評価

自己点検・評価の視点	自己評価	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	-	令和4年度の段階でまだ修了者はいない。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	C	学外からも教育プログラム内容・手法等への意見が伺えるよう調整を進めている。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	/	データサイエンス・AIは日進月歩の分野のため、単位を取れた後も自らアンテナを張って最新情報を収集・理解し続けることが重要である。課題では自ら調べ考える課題を多くすることにより、今後も自ら学び続けられるよう調べ方を身に付けさせ、自ら学ぶ楽しさを体験させるとともに自主的な学びの姿勢をはぐくませている。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	/	提出課題や試験の出来や学生アンケートをもとに、適宜学習内容や配布資料、課題を見直し、内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業としていく。

A：自己点検・評価の視点を上回る成果を達成できた。

B：自己点検・評価の視点の通り、成果を達成できた。

C：自己点検・評価の視点の通りの成果を達成できなかったが、達成に向けての対応策が立案され、対応に着手している。

D：自己点検・評価の視点の水準まで成果を達成できなかった。さらに、達成に向けた対応策が立案されていない。